

令和元（2019）年 第8回定例教育委員会会議録

- 1 招集年月日 令和元年8月29日（木） 14時00分～
- 2 招集場所 佐々町役場 別館2階会議室
- 3 出席委員 黒川教育長、舩委員、十時委員、寺崎委員
- 4 事務局出席者 水本次長、貞松指導主事、落合次長補佐、西係長、鮎川係長
- 5 会議録署名委員の指名 寺崎 純子 委員
- 6 前回の会議録の承認 令和元年 第7回定例教育委員会（7/31）
- 7 教育長報告
- 8 案 件 議案第27号 佐々町要保護及び準要保護児童生徒就学援助に関する
要綱の一部改正について
議案第22号 平成30年度自己点検・評価について
- 9 報告事項
 - (1) 全国学力・学習状況調査について
 - (2) 佐々町学校給食施設整備検討委員会答申について
 - (3) 令和元年度事業関係について
 - (4) 幼児教育・保育の無償化について
 - (5) 名義後援について
 - (6) 準要保護の8月認定について
 - (7) 行事関係報告について
 - (8) その他
 - ・議案第24号資料の訂正について
 - ・郡民体育大会について
- 10 その他
 - (1) 次回開催日程 令和元年9月25日（水）13時00分～
 - (2) 場 所 佐々町役場 別館2階会議室
 - (3) そ の 他

〈審議の経過（要約）〉

教育長	ただ今から、令和元年第8回定例教育委員会を開催します。
教育長	5 会議録署名委員の指名 本日の会議録署名委員を指名します。寺崎 純子委員にお願いします。
教育長	6 前回の会議録の承認 前回の「令和元年第7回定例教育委員会会議録」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料により説明)
教育長	今、説明がありましたが、質問や、お尋ね等ございますでしょうか。 (「なし」の声あり。)
教育長	ないようでしたら、承認することといたします。
教育長	7 教育長報告事項 次に教育長報告に入ります。 まず最初に、昨日は申し訳ありませんでした。定例教育委員会開催を予定をしていたわけですが、大雨の危険性があるということで、1日延期させていただきました。 大きな被害はありませんでしたが、公民館、それから、地域交流センターを避難所として開設し、20人程度の方が避難されたという状況があります。
教育長	(1)教育委員会の主な行動 (資料により説明)
教育長	(2)町内校長会指導事項等 【指導事項】 ○学力調査結果について 来年度に向けた対応を今から始めてくれという話をしました。 ○統合型校務支援システムに関わる研修について 小値賀町が試行的に統合型校務支援システムを導入していますので、システム化に向けた権威である大学の先生がお見えになり、9月4日に研修会があるということで、各学校から管理職を1名ずつ、それから、教育委員会から次長補佐が参加します。 その研修をしっかりと理解して、イメージを膨らませてほしいということと、導入された場合、円滑な移行をしてほしいという話をしたところです。

教育長	<p>○夏休み明けの児童生徒の状況確認について 登校したらすぐ所在の確実な確認をしてほしいということで、欠席者がいた場合は、その欠席者の理由、所在等を確認してほしいということで報告を求めているところです。</p> <p>○ストレスチェックの実施について ストレスチェックの実施については、なるべく全員受けるようにということを重ねて指導してほしいということをお話しました。</p> <p>○来年度からの通知表の様式の検討について いろいろな書類は統合型校務支援システムで作成が可能になってくると思っています。ただ、通知表は学校で様式の検討・作成をしなければなりませんので、学期末に仕事が重なること、仕事が集中することがないように、計画的に仕事を進めてほしいという話をしました。</p> <p>○教科書採択と年間指導計画の作成について これも後から話があると思いますが、採択教科書の公表が9月1日ということになっています。公表が終わり次第、次年度に向けた年間指導計画の作成も計画的に進めてほしいという話をしました。</p> <p>○児童生徒の集合場所等の点検について 児童生徒の集合場所の点検についてということで、これは文科省から調査が来ていました。子どもたちが登校するときに集合する場所の安全点検をしてほしいということで、そうすると、例えば口石小学校の場合、単純に考えて50か所近くの点検箇所になるのではないかと考えています。 全職員でかからないと、これはとても無理なので、次回の校長会で、より負担にならず、より正確にできる方法について検討しようということで話をしました。 私からの報告は以上です。何か質問等ございませんでしょうか。</p>
教育委員	集合場所というのは、緊急時の集合場所ですか。
教育長	登校時の集合場所になりますので、集団登校するときの集合場所です。
	8 案件
事務局	議案第27号 佐々町要保護及び準要保護児童生徒就学援助に関する要綱の一部改正について (資料により説明)
教育長	今、事務局のほうから説明がありましたが、ご質問等ございませんでしょうか。国の基準に従ってきちんと対応しました。
事務局	議案第22号 平成30年度自己点検・評価について (資料により説明)
教育委員	成果指標の11番なんですけど、「ICTを活用した学習に取り組むことができる

教育委員	児童生徒の割合」というところですけど、ここは、昨年、指導主事のほうからタブレットの活用がちょっと不足しているけれど、今年は向上する見込みがありますというような説明があり、メモしていたんですが、そのあたりはどうなんですか。
事務局	一応、タブレットは各校に40台常備されています。これまでは電子黒板を主に使っていたところなんですけれども、今年度はタブレットも活用して、教科ごとに使うような指導といいますか、働きかけをしていきました。現に今、使っているところもあります。
教育委員	タブレットの台数を増やしたということですか。
事務局	台数はそのままです。それを積極的に使うように指導しているところです。
教育委員	ちょっと進歩があったということですね。
事務局	今、主に理科の観察の時などに使っているようですが、ほかの教科にも使っていくように指導しているところです。
教育委員	評価はまだ同じCということで。
事務局	そうですね。まだちょっとそこが。
教育長	<p>昨年度が67.7%なんです。今年が68.0%ということで、ここ数年、頭打ちの傾向なのかなと強く感じています。ほかのところも、昨年度に続きというところが多いわけですが、これが、県の取組みがこういう項目になっているので、「活用して学習に取り組むことができる児童生徒の割合」という項目があるので、そのまま活用せざるを得なかったんですけど、「取り組むことができる」ということなので、使う頻度を高めたなら使えるところが増えるかということ、ちょっと難しいところがあるのかもしれない。</p> <p>そのあたりをもう一回検証しながらやっていかなければいけないと思うんですが、ただ、教育委員さん方にこの前、教科書採択のときに見ていただいたように、教科書にQRコードが入ってきますので、子ども自身が活用する頻度が高まるという方向になるのではないかという気はしています。</p> <p>この項目についても、昨年、今年と68%前後で頭打ちの状況が続いているので、対応を考えていきたいと思っています。</p>
事務局	もう一つ、そのQRコードが導入された教科書を来年度から使っていきますので、もう必然的に授業の中でタブレットは使わざるを得なくなってくるんじゃないかという予想は立てています。
教育委員	その点は確かによかったですね。教科書にはQRコードが入ったということで。

事務局	そうですね。
教育委員	ただ、そうなると、台数的に40台というのが、1クラスに当たるぐらいですよ ね。同じ時間帯に重複して使うことができないということになるんじゃないです か。
事務局	今、各クラス1日に1時間はタブレットを使って授業ができるような台数を整備 してくださいと国が言っているところで、本町も検討しないといけないと思ってい るんですけども、財源がという話になってくるので、整理をして増やしていきたい と考えています。
教育委員	ありがとうございます。
教育長	少し、後追いでいいだろうと思うんです。ニーズが出たところで予算化を検討し ていく。足りなくなったという状況であったり、もしくは、足りないのでグループ で使っているとか、そういう工夫をしながら、実際に台数を増やさないとけない という状況であれば、台数を増やす必要があると思っています。有効にICTを使 ってほしいところです。
教育委員	同じページの、この成果指標の1番と8番で、赤で○がついているところは、A とか何とかはやらないということでしょうか。
教育長	昨年度、検討して変えた部分で、ここは目標値が3回と非常に少ない数字です。 だから、これが、いわゆる達成度を表す場合に、母数が小さいと、例えば、3回 のところ6回だったら200%という数字が出てくるわけです。そうすると、全体 を、例えば、この1の項目を評価するとき、その200%が全部を押し上げてしま うということで、昨年度、この母数になる数字が5か6以下の場合、○×の表示 にしようということで改善しました。
教育委員	○×式になるということですね。
教育長	そうです。○×式にしました。
教育委員	前は数値で出ていましたもんね。
教育長	110%程度は出るかもしれませんが。ただ、昨年は300%というような数値が 出たところがありました。それは、ほかの数字を押し上げるだけで実態から離れる ということで、こういう表示に変えました。
教育委員	もうこれは、○か×かということですね。

教育長	はい、そうです。昨年度、これに変えるということでご検討いただいたと思います。
教育委員	昨年の達成度は、この1番と8番に関してはどちらも111%で、3回が3回か。何かそんな感じで昨年まではなっていました。ランクもA評価ということで、今回から〇×評価に変更したということですね。
教育長	そうです。 失礼しました。訂正します。母数が10以下になるものについては、〇×表示です。
教育委員	成果指標の14番のところで、「身近なことを英語で話すことができる中学生の割合」が、これがずっとD評価になっています。それで、これも原因が英語に拒否反応の生徒が結構見受けられるじゃないけれど、そういうふうな分析が出ていたが、そのあたりはどうなんですか。改善策じゃないけど、何か対策とかあったのかなと思っているのですが。 英語に対する拒否反応の子どもたちが見受けられるというようなことが、この原因かなということをおっしゃったと思うんですけど、どうなんでしょうか。やはり拒否反応は相変わらず見受けられるのですか。
事務局	後で、全国学力調査の説明のときに、ちょっと詳しく話をしようかなと思っているんですが、やはり、まだ2、3年生の英語力というのはかなり低迷しているという現実があります。 今年度、若干変わった点で、1年生の英語の授業が楽しくなったという声が私の耳にも入ってきています。 というのが、両小学校の英語科の専科の先生もいるんですが、ALTと一緒にやっているんです。その延長というか、連携をとりながら1年生に行っているわけですが、小学校の英語と変わらないような雰囲気が、今、中学1年生の授業で行われています。見ていないからちょっとわからないですけど、今度、見に行こうと思っているんです。
教育委員	小学校楽しかったですね。何かやっている感じが。
事務局	若干、雰囲気が変わっているんじゃないかなという期待感を持っているんです。まだ見ていませんのでよくわからないんですが、雰囲気は変わったと子どもが言っているそうです。小学校に遊びに来て、「英語楽しいよ」みたいな感じで。そういう声を聞いています。 まだ形には見えていないんですが、いい傾向かなという思いはあります。まだ形としてあらわれていないので、はっきり言えないんですけども。
教育委員	そうですね。何とか少しよくなるといいかなと思って。

<p>教育長</p>	<p>昨年度が14番が52.9%、15番が18.6%ということですね。5倍と捉えた方がいいと思うんです。今年から指導主事を中心に英語力向上ということで具体的な取り組みを開始したところですし、今までの英語教育を考え直すべきだろうという思いを強く持っています。話せる英語というか、楽しい英語というか、どうも、中学校の英語が昨年度も指摘したところですが、昔なりの授業がなされている。新出単語を読んで訳してといったやり方が強いんじゃないかなということで、昨年度は、県の教育センターから指導主事呼んで、全教師による研究授業、研究会を持ちました。</p> <p>今年度も県教委のほうから指導主事呼んで、同じような研修を持つ予定にしています。対策として、一つは、今年から英語専科教諭を入れましたけれど、小学生の時期から英語が楽しいんだということを、ちょっと時間はかかるでしょうけれどやっていくということ。もう一つが、指導主事等の力を借りながら、具体的に中学校英語の改善を図っていくということ。ちょっと時間がかかると思うんですが、これは、この項目だけではなくて、学力調査の中でも、英語の改善が急務であるということが、ずっと続いているわけで、遠回りに見えてもやるべきところかなと思っています。長い目、そして、小学校からという長い計画と、指導主事呼んでの改善、二つの方向からやっていこうと思っています。</p>
<p>教育委員</p>	<p>30番の図書冊数ですけど、中学生の成果指標、「学校図書館の児童生徒1人当たりの貸出冊数」について、中学校が、やはり難しい本を読むから冊数が少ないんじゃないかというのはわかるんですけど、やはり、小学校と比べて少ないようですので、中学校のほうでどんなふうな手だてというんですか、そういう司書の方もいらっしゃると思うんですけど、どういうふうなことをされているのかなと思ってお尋ねします。</p>
<p>教育長</p>	<p>この冊数が、昨年度が9冊、今年が6冊ということで落ちていきます。昨年の図書担当と話をしたんですが、伸び切れなかった。確かに、おっしゃるように難しい本ということもあるんだけど、やはり、読ませる努力がかなり足りない。端的にはそういうことだと思います。</p> <p>このことについては、次の校長会の中でも評価について指導事項の中に入れますので、具体的な対応を練ることを学校に指導したいと思います。</p> <p>そんなに難しいことでもないと思うんですけど、雰囲気は上げられるかどうかということだろうと思います。ちょっと残念な結果です。</p> <p>実際、この目標値を設定したときに、中学校が14冊ありましたので、それからするとずっと下がっているという感じです。</p>
<p>教育委員</p>	<p>全国的な数値はどうなんでしょうか。中学生はやはり下がる傾向にあるんでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>読書冊数は、小中高と下がるのは間違いないです。</p>

教育委員	中学生もどんどん下がっているみたいですが。
教育長	近年の動きというのは、私自身は理解していませんけれど、そういうデータは、目にしたことはありません。
教育委員	スマホの影響で、本への関心が薄れていくのかなと。
教育長	一般論としてそういうことは聞きますけれど、数字的には聞いていません。何かあれば確認してみたいと思いますけれど。
事務局	一般的に、様子を見ておけば、今はもう子どもたち、中高生はスマホを見る時間がやはり長くて、昔のスマホがない時代というのは、やっぱり文庫本を持ったりとかいう子はいたんですけど、ほとんど見かけなくなった。 やはり、そういう情報、携帯などが影響しているのかという思いもあります。
教育委員	今の子は情報はスマホからとりますもんね。
事務局	辞書なんかも全部スマホでやりますから。意味も調べるし、何でも使えるということ。
教育委員	新たな課題ですけれど、最近、世の中の流れとして必ず減っていくものがあるので、目標値を減少率90何%以内とか、そういうふうに置きかえなければならないものも、現状維持自体が、もう難しいのが当然出てくるので。そういうふうな設定も考えていく必要があるのかなと。
教育長	十分努力して、そういう傾向が明らかであるならば、目標値がまずいということなんでしょうから、まず、十分努力をする手だてについて指導していきたいと思います。
教育委員	スマートフォンとかそういうものに行くというのはわかるんですけど、やはり、スマートフォンの場合は、また戻って見たいというときが本とは違うと思うんです。だから、やはり本に親しむというような努力が必要じゃないかと個人的には思います。
教育長	ご意見ありがとうございます。
教育委員	中学校の図書室に例えば、コミック本みたいなものはあるんですか。小学校は、学習漫画みたいなのはありそうですけどいかがですか。
教育長	多少あります。全部ではないですけど、歴史関係とかコミック的なものを置いています。

教育委員	<p>そうなんですか。まず、図書館に入るといふところかなとか思うと、何か興味を引きそうな本だったら、以前も言ったんですけど、読みやすいような簡易な本だったりとか。今、コミック本もすごく内容の厚いものもあつたりして、結構感動して、増えていくのではないかと。</p>
教育長	<p>今、大分、図書館の蔵書については考え方が変わっています。今度、学校を見に行くときにでもごらんいただければと思うんですが、かなり入れかえをしています。新しく読みやすくという形に変わっています。昔のように、文学全集を並べておくという感じではありません。</p>
教育委員	<p>簡単なところですが、同じページで、28の「環境問題に関心があり、何らかの取り組みを実践している児童生徒の割合」というところなんですけど、こここのところの「調査」というところがブルーの網掛けに変わって、印がついていますよね。何で変わったのかちょっとわからない。</p>
教育長	<p>これは以前に、ご説明して変えたところですけど、最初に表示または作成したときの間違いです。ここは、調査項目を「実態調査」ということにしていたんですけど、実は、年に1回、学校運営調査というものを、児童生徒を対象にしています。その数字を持ってこられるようにしていたところを、私が間違っ、「実態調査」と間違えたので、「学校運営調査」ということで訂正しました。</p>
教育委員	<p>わかりました。</p>
教育長	<p>表示の間違いです。</p>
教育委員	<p>成果指標の33の「全国運動能力調査の到達度」というところ、ここは、前はCで、60.4%だったのが、今回すごく上がりましたよね、99.8%とか。これは、何か特別なことをなされたんですか。</p>
教育長	<p>ここが、たしか数値目標を設定するときかなり苦労して、何かうまいやり方がないかと考えたところだったんですけど、平均値がよくわからないということだったので、前回の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力テストの結果が、県平均を上回る調査項目の割合、ずっと全学年やるわけですけど、例えば50メートル走で全国平均を上回っている、下回っている。そういった全部で7、8項目やるんですけど、それを数えていって、幾つが上回っているか、その割合が何%かという数値の出し方をしていました。</p> <p>それは、非常にわかりづらいというか、あまり正確ではないので、現在は、平均値がきちんと出ているということがわかったので、例えば、小学校5年生の50メートル走のタイム、平均タイムについて、全国との比率が出ます。1以上になっているとか、全国と比べての比率が出るわけです。</p> <p>例えば、握力の項目で比率を出していく。それらの比率を全部横に足していって、</p>

教育長	<p>平均値を出して全国とどうかというようなやり方に変えました。 だから、より数値的に信頼性は高くなったと思います。</p>
教育委員	<p>実情に即した形に変わってきたということですね。</p>
教育長	<p>それでは、7ページから最後の9ページまでということで、ご質問、ご意見等あればお願いします。 9ページ、成果指標の75番、ここがDということになっていますが、その説明を社会教育班係長、お願いしていいですか。</p>
事務局	<p>指標としましては、「郷土史学習の推進」ということで、「社会教育講座、公民館講座における郷土学習の開催回数」を評価にしているんですけども、昨年度が特別講座である「佐々ぶらり」という講座を開催し、成果の値としては1回ということで、それ以外の講座のほうでもうまく郷土史につながる講座ができればよかったですけれども、平成30年度は、特別講座1回のみということで、評価がDということになっています。</p>
教育長	<p>昨年度が北松歴史探訪だったかな。歴史関係を行ったんです。今年の予定はどうですか。</p>
事務局	<p>今年は、北松浦見聞録という、これも特別講座になるんですけども、10月から3回連続で行う予定としています。</p>
教育長	<p>昨年度は、健康ウォーキング関係を入れて、歴史といいますか、郷土学習ではない部分をとったものだから数値が下がったということですね。その結果、項目総合評価がBになったということですね。ということでご理解いただければと思います。今年度は改善されるだろうということをご理解ください。</p>
教育委員	<p>成果指標の77番なんですけれど、町指定文化財数が11件で、目標値が去年15件、今年が13件となっているんですが、この2つ、マイナスになったのは、どこどこが抜けたのかなと思って。どこの候補地が減ったのでしょうか。</p>
教育長	<p>正直に申しまして、15件というのは、15件ぐらいはできるだろうというアバウトな数字でした。 昨年度、見直しをかけたのが、目標値については、本当に達成可能、もしくは努力すれば達成できる数値なのかということで、見直しをかけました。そうした場合、現在、委員会事務局の中で、町指定文化財として指定が可能なのが、あと2件ほどあるということで、現実的な数字として13件ということに変えたということですので。ですから、社会教育関係では、いろんな数値目標、目標値を変えたと思います。現実から乖離した数字については、現実的な数字に変えるということに対応したところでは。</p>

教育長	ちなみに、あと2件の指定については、準備に取り掛かっているところです。
教育委員	どこどこになっていますか。
事務局	今年度中に行いたいと考えているのが1件なんですけれども、平成29年度に解読作業を行った「吉永文書」を町指定文化財にしたいと思ひまして、今年度中にそのための審議会等の開催を予定しています。
教育長	もう1件は後から。ちょっと即答できないようですから。
教育委員	<p>同じページで、132番です。成果指標の81番、文化会館の年間利用者数で、現状値が2万9,500人なんですけど、前年からするとちょっと下がってはいるんですけど、このあたりは、もちろん現状維持でいいかなと思うんですけど、傾向としては現状維持でも厳しいのかなと思ったり、やはり現状維持を目指して頑張ろうということなのかと思っています。</p> <p>前は、「増加」ということが「現状維持」に変わったんですね。それで、数値の前年が2万8千何がしかで、今年が3,000人も下がっているの、このあたりもいろんな構造的なものがあれば、なかなか現状維持も厳しいのかなと思つたもので、お尋ねしてみました。</p>
教育長	そのあたりはわかりますか。
事務局	平成30年度の利用者数の減少について説明させていただきます。まず、大きな要因としましては、地域交流センターの利用の推進を行ひまして、今まで中ホールですとか研修室で行われた会議関係等は、できるだけ地域交流センターをということで推進したことが主な要因となっています。
教育委員	<p>そうすると、この現状値は別に変えなくてもいいんですか。</p> <p>現状値が、平成26年2万9,500人でありますけど、分散されるんだつたら、この現状値もいじらなくていいのかなと。</p> <p>今、「現状以上」と新しく変わりましたよね。増加させるというのが、「現状以上」という表現が加わっていますけど、現状以上でも大変かなとか。</p>
教育長	<p>増加を「現状以上」という表現に変えたのは、増加といった場合は、2万9,501人にならないと増加にならない。2万9,500人だと100%にはなりません。そこで、表現を「現状以上」に変えました。</p> <p>文化会館の経年変化について、ちょっと手持ちに資料がないんですが、大体このあたりで推移していると思っています。逆に言つて、2万5,459人ですけど、86.3%、目標値に対して8割といいますか、9割近くが達成できています。だから、目標値の2万9,500人というのを現状では変える必要はないと思っています。</p>

教育長	<p>これが、何らかの要因で1万人しか利用されていないとか、どこか壊れたとか、そういうことになれば、目標値の見直しというのは必要になるかと思うんですけど、大体2万5,000人近くはいつているので、昨年が2万8,000人ですから、この数値でしばらく様子を見たいと思っています。</p>
教育委員	<p>大きなイベントがあれば、1,000人ぐらいつぐ増えるんですね。 同じ、地域交流センターのところ、3万5,000人という、このあたりの数字も大事なものですか。この3万5,000人というのは少し多くないですか。</p>
教育長	<p>確かに、大きな数字ではありますけれど、本年度も利用団体、地域交流センターのほうを使ってほしい、使わせてほしいという団体も出てきましたので、今年度は少し改善できるんじゃないかと思っています。</p>
教育委員	<p>わかりました。</p>
教育委員	<p>大したことじゃないんですけど、今の文化会館年間利用者数というところの人数の下に、括弧して平成26と書いてあるのは、平成26年度の指標ということですか。結構、前の数値と比較していく形になるということですね。</p>
教育長	<p>佐々町教育振興基本計画が第2期ということで、平成29年度に作成いたしました。平成29年度から平成27年度の数字を基本的にとったんですけど、これは、たしか、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中に2万9,500人という平成26年度の数値が使われていたので、あえてここだけ平成26年度の数値にしました。同じ内容に2つの目標があるというのはおかしいということで、ここだけ平成26年度の数字を使わせていただきました。</p>
教育委員	<p>わかりました。</p>
教育長	<p>それでは、もとに戻りまして、1ページから。 いかがでしょうか。先ほど個別に見ていった中で、総括表、活動指標、成果指標、AプラスBの割合というのが、活動指標が99.5%、成果指標が89.0%というようなことになっています。 項目別で見ていくと、おおよそAですけど、先ほど、係長から説明があった、9番、「芸術文化を育てる活動の推進」の成果指標がBになっています。</p>
教育委員	<p>総括表、活動指標ですが、大体、この見直しをしたので、大体上がっていくのが、例えば成果指標だと、去年も83.7%が89%とぐつと上がっているんですが、この活動指標が99.5%に下がったのはなぜですか。</p>
教育長	<p>これが、先ほど説明があった一番最後のページ、9番、「郷土学習の推進」、郷土学習の実施件数が1回でDです。</p>

教育長	この1項目が0.5%に相当するので下がってしまったということです。
教育委員	全体的には適正な数値に変わったということですか。
事務局	活動指標のほうですか。 8ページの7の「生涯学習・社会教育の推進」、116と117がBです。 それと、9の「芸術・文化を守り、育てる活動の推進」で、今、教育長がおっしゃられた127の「郷土史学習の推進」がDになったので、0.5%下がっています。
教育長	やらなくても、これは数値が出てくるということです。だから、適正な評価方法だということ。
教育委員	実態をよく反映できるようになったということですね。
教育長	それでは、○×の表示等の変更点について、一文加えさせてもらって、最終的な報告ということにしたいと思います。 それでは、議案第22号「平成30年度自己点検・評価について」の議案を終わりたいと思います。
事務局	9 報告事項 (1) 全国学力・学習状況調査について (資料により説明)
教育委員	してくださいという意味ではないんですが、学力調査向けの、よく模試みたいなものって、何か他県とかでは、これに合わせた勉強をするというのを聞いたことがあるんですけども、これとは全く関係ないんですが、そういう傾向は、先生方はわかっていらっしゃるんですか。
事務局	それは、わかっています。例えば、授業を潰してこれ専門に授業をするとか、そういうことは本末転倒ですけども、21ページの全国学力調査過去問というのがあります。過去10年間の問題をホームページ上に教育センターのほうで公開しているんです。それをもとに練習といたしましょうか、そういうことは授業外にやったりとか、授業の中にちょっと解説を入れたりとか、そういったことは各学校でやっています。 ただ、丸々1時間、これでやるということはやっていません。
教育委員	そういうわけではないんですけども、よそがやっついてうちだけやっていないとかいうことがあると、そこでまた差がつくのかなと思ったりしたので。
事務局	これはそうですけども、もう一つ、佐々町独自の標準学力テストというのも町独

事務局	自でやっています。
教育長	他にご質問はございませんでしょうか。 （「なし」の声あり）
事務局	(2)佐々町学校給食施設整備検討委員会答申について (資料により説明)
教育委員	今のところ、建設場所については、教育委員会としては優先順位として1番上からやっていくという考えなんですか。
事務局	こういう順番で優先順位を考えています。それから、法的な問題など、クリアしなければならないことや、地元説明会など、いろんな問題が上がってきます。今回お示した資料には候補地名を明記せず、1番、2番、3番といった形でお示していますが、町としては今の現有町有地を利用すると。新たに土地を購入するものではなく、今の現有町有地を利用していくということで説明させていただきたいと考えています。
教育委員	このあたりの優先順位が入れかわる要因としては、どういうことが考えられますか。議会の考えとか。
事務局	やはり、議会との調整も必要になってくると思います。やはり、地元の住んでいる方の理解とか、町全体の住民の理解も得ないといけません。その後、学校の保護者への説明会とか、そういったものも順序立ててやっていかないといけないと思っています。何より住民に理解をいただくことが必要と考えています。
教育長	基本的には、この考え方で進めて行こうと思っていますが、ご了承いただけるでしょうか。 あくまでも、現在、そう考えているということです。いろんな結果の中で変更または検討をすることになってくるかもしれません。教育委員の皆様からもご意見をいただきながら、進めていきたいと思っています。
事務局	(3)令和元年度事業関係について (口頭で説明)
事務局	(4)幼児教育・保育の無償化について (資料により説明)
事務局	(5)名義後援について 申請がなかったため、取り下げ。

事務局

(6) 準要保護の8月認定について
申請がなかったため、取り下げ。

事務局

(7) 行事関係報告について
主な教育委員会行事の8月実績および9月予定について報告。

事務局

(8) その他
・ 議案第24号資料の訂正について
・ 郡民体育大会について

(16時45分 閉会)

上記のとおり会議の次第を記載して、相違ないことを証するためにここに署名する。

令和元年8月29日

教育長

黒川 雅孝

委員

工崎 純子